

<金標準先物、再度利上げ観測を織り込む調整安に注意・・・>



(出所：オアシス)

先週末に発表された PCE コアデフレーターが前年比 4.6%と低下し、インフレ抑制を示す期待感が高まっていたが、OPEC プラスの日量 100 万バレル減産の合意を受け、インフレ抑制の腰を折るサプライズの動きもあったが、ISM 製造業景況指数の発表、求人件数、ADP 民間部門雇用者数、ISM 非製造業景況指数が尽く事前予想を下回るなど景気後退懸念が再熱し、FRB 当局の利上げ停止観測が強まる中で、NY 金は昨年 3 月の高値 2078.8 ドルに迫る 2049.2 ドルまで高値を模索している。そのため金標準先物は、景気後退懸念を受けた金利低下を受けて 8556 円まで高値を試している。ただ週末発表された雇用統計では、非農業部門雇用者数が 23.6 万件、失業率は 3.5%と雇用環境は依然と堅調な数字を示した事から、5 月の FOMC では 0.25%の利上げを織り込む動きをみせたが、NY 市場がグッドフライデーの休場でもあり、為替の円安の動きでも 8525 円で高値が止まるなど、高値追いに対する陰りも見えるなど、目先の調整安に備える動きに注意が必要と思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が伸びなくなり、**シグナル**は上昇するなど乖離の縮小を示している。RCI は **短期**が下げだし、ただ**長期**は維持するなど強気の域を見せている。しかし日足と **40 日移動平均線**の乖離が拡大しており、**10 日移動平均線**が位置する 8418 円に向けた目先の調整には注意した方が良いと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 2,670,000 円(2023 年 4 月 10 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 39,160 円(2023 年 4 月 10 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>